

No	39																
指標名	輸血用血液製剤廃棄率																
定義	$\frac{\text{(分子) 血液製剤(赤血球、血漿、血小板)廃棄単位数}}{\text{(分母) 血液製剤(赤血球、血漿、血小板)購入単位数}}$																
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>赤血球製剤</th> <th>血漿製剤</th> <th>血小板製剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017年度</td> <td>0.88%</td> <td>1.16%</td> <td>0.83%</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>0.48%</td> <td>0.61%</td> <td>0.57%</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>0.21%</td> <td>0.57%</td> <td>0.37%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	2017年度	0.88%	1.16%	0.83%	2018年度	0.48%	0.61%	0.57%	2019年度	0.21%	0.57%	0.37%
年度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤														
2017年度	0.88%	1.16%	0.83%														
2018年度	0.48%	0.61%	0.57%														
2019年度	0.21%	0.57%	0.37%														
コメント (解説)	<p>わが国では、輸血用血液製剤は献血による血液を用いて日本赤十字社において調整・供給されています。</p> <p>近年では少子高齢化が進むにつれて献血者が減少し、血液製剤の将来における不足が懸念されており、血液製剤は益々貴重な資源として認識されるようになってきています。</p> <p>そのため血液製剤の廃棄量を減少させることは、貴重な資源の有効利用の観点からも大変重要な課題であり医療関係者の責務でもあります。</p> <p>当院でも輸血療法委員会を中心に、T&S・MSBOSの導入や、適正輸血の推進、また血液製剤の院内での有効利用の推進、在庫量の再検討を行うなど廃棄血削減に取り組んでおります。</p> <p>現在の血液製剤廃棄率は上記のようにかなり低く維持されており、全国平均と比較しても低い廃棄率で推移しております。</p>																